

<p>事例項目</p>	<p>母子保健事業における相談業務について <市民ニーズに対応した幅広い支援の提供></p>
<p>事例発生時期</p>	<p>平成20(2008)年6月～平成21(2009)年10月</p>
<p>担当課</p>	<p>健康福祉部 健康増進課</p>
<p>事例概要</p>	<p>①平成20(2008)年6月、乳幼児健診時において、保護者から「子どもが会話をする際、発音が聞き取りにくいいため、保育園で他の子どもから、からかわれている」との内容の相談を受けた。 ②相談を受けた保健師は、言語聴覚士(※1)による発音相談が必要であると判断し、その対応を行った。 ③上記②の発音相談において、幼児に対して、舌や口唇の動かし方の指導を継続的に行うことにより、就学時には、おおむね正しい発音での会話が可能となった。 ④幼児が小学校に就学してからも、発音の誤りに起因するいじめ等を回避するため、学校・保護者・言語聴覚士・保健師間の連携を密にし、正しい発音での会話にむけた言語支援カンファレンス(会議)を継続的に行った。</p> <p>※1 言語聴覚士…音声、言語、または聴覚に障がいがある人に対する訓練と、それに必要な検査・助言・指導に従事する者</p>
<p>事業効果など</p>	<p>○保護者の育児に対する不安を軽減させるとともに、市民ニーズに応じた幅広い支援を提供することができた。 ○平成21(2009)年10月16日、保護者から子どもに対する支援への謝意が書かれた礼状をいただいた。また、その礼状には、子どもからの直筆の手紙も添えられていた。 ○保育園での他の子どもからのからかいは減り、幼児は自信を持って、安心して登園することとなった。 ○学校教育課が行う支援コーディネーター研修(※2)の際に、「言語聴覚士による発音相談業務」を紹介し、教育委員会との連携を強化することにより、言語障がい児の発掘、一層の支援拡充に努めている。</p> <p>※2 支援コーディネーター研修…学校生活において配慮が必要な児童・生徒の支援学級担当教師に対して、中心的役割を担うコーディネーターとして資質を高めてもらうために行う研修</p>